

~19年

21年

1次審査

制度なし

438名

10名

委員長	磯貝 彰	奈良先端科学技術大学院大学特任教授	植物・分子生物学
副委員長	原田 宏	山形県農業研究検収センター総長	植物生理学
委員	上野川 修一	日本大学生物資源科学部教授	栄養学
	高橋 迪雄	味の素株式会社健康基盤研究所顧問	生理学
	小沼 操	元北海道大学大学院獣医学研究科教授	感染症学
	武田 和義	岡山大学資源生物科学研究所所長	植物育種学
	塚越 規弘	放送大学愛知学習センター所長	微生物学
	鎮西 康雄	鈴鹿医療科学大学医用工学部教授	昆虫学
	秋田 重誠	滋賀県立大学環境科学部教授	作物生態学
	今中 忠行	京都大学大学院工学研究科教授	生物工学

14名

委員長	武田 和義	岡山大学名誉教授	植物育種学
副委員長	今中 忠行	立命館大学生命科学部教授	生物工学
委員	秋田 重誠	滋賀県立大学名誉教授	作物生態学
	小沼 操	北海道大学名誉教授	感染症学
	鎮西 康雄	鈴鹿医療科学大学医用工学部教授	昆虫学
	塚越 規弘	放送大学愛知学習センター所長	微生物学
	鎌田 博	筑波大学大学院生命環境科学研究科教授	植物生理学
	熊谷 進	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	獣医衛生学
	山口 五十磨	前橋市立前橋工科大学特任教授	生物有機化学
	西野 輔翼	立命館大学COE推進機構特別招聘教授	基礎医学
	梅津 憲治	大塚化学ホールディングス株式会社専務取締役	薬学
	坪田 一男	慶應義塾大学医学部教授	基礎医学
	降旗 千恵	青山学院大学理工学部化学・生命科学科教授	分子生物学
	油田 伸一	筑波大学システム情報工学研究科教授	ロボット工学

2次審査

2 公基対象となる研究分野

<p>(1) 生物機能の解明による生産力の向上 例・超多収性・多産性・産肉性等の高い生産性の要因解明及びその利用 ・光合成・形態形成機構の解明及びその利用 ・耐塩性・耐寒性・耐暑性・乾燥耐性等の極限環境耐性を発現する機構の解明及びその利用 ・免疫調節・感染防御機構の解明及びその利用</p> <p>(2) 農林水産物・食品の高品質・高機能化 例・機能性成分の同定及び動態・作用機構の解明 ・食品の高品質化のための加工法の開発 ・農林水産物・食品の品質保持手法の開発</p> <p>(3) 農林水産物・食品の安全性の確保 例・農林水産物・食品の生産・加工・流通における新たな危害要因の分析手法の開発や動態解明</p> <p>(4) 有用物質及びバイオオプテックスの活用 例・有用物質の同定及び特性・機能の解明 ・有用物質の生体内での産生機構の解明、画期的活用法の開発 ・難分解性バイオオプテックスの構造特性・分解機構の解明 ・バイオオプテックスを利用した新たな素材・用途の開発 ・バイオオプテックスの従来にない高効率なエネルギー変換・利用手法の開発</p> <p>(5) 生物及び生態系の機能の解明及び高度利用 例・環境汚染物質の分解・除去等の生物の環境修復機能の解明及びその利用 ・生物の環境保全機能の解明及びその利用 ・生態系における生物間の相互作用や物質循環メカニズムの解明及びその利用 ・気象変動と農林水産生態系の変化との関係の解明</p> <p>(6) 工学的手法の高度利用：情報技術、ロボット技術、センシング技術、モニタリング技術、ナノテクノロジー等の工学的手法を農林水産・食品分野で高度に活用するための研究</p> <p>(7) 国際的な食料・環境・エネルギー問題への寄与 例・海外の有用な自然資源の探索・評価、当該資源の利用技術の開発又は当該資源を活用した画期的な農林水産物の開発 ・越境性の病虫害・感染症の拡散予防技術の開発 ・森林減少・劣化の防止に貢献する植生回復技術の開発</p> <p>※ 本分野の研究であっても、事業の趣旨にあるように、我が国の生物系特定産業における課題の解決や新たなビジネスの分野の開拓等に資するものが公基です。</p> <p>(8) 基礎的技術の開発：上記(1)～(7)の研究を効率的、高精度に実施するための研究手法に関する研究</p>
--

農林水産研究基本計画 (抜粋)

II 農林水産研究の重点目標

農林水産研究は、農林水産業、食料、環境等が直面する諸課題に対して、農林水産政策の展開と密接に連携しつつ技術開発の面から課題解決に取り組むとともに、新たな技術開発によってその未来を切り拓くという役割を担っている。このため、農林水産研究が目指すべき社会的な貢献を念頭に置き、農林水産研究の多様な取組の中から、今後10年程度を見通して重点的に取り組むべき研究開発の課題を重点目標として示した。

1. 課題の解決と新たな展開に向けた研究開発

- (1) 農林水産業の生産性向上と持続的発展のための研究開発
- (2) ニーズに対応した高品質な農林水産物・食品の研究開発
- (3) 農林水産物・食品の安全確保のための研究開発
- (4) 農山漁村における地域資源の活用のための研究開発
- (5) 豊かな環境の形成と多面的機能向上のための研究開発
- (6) 国際的な食料・環境問題の解決に向けた農林水産技術の研究開発
- (7) 次世代の農林水産業を先導する革新的技術の研究開発